

平成 30 年度支援対象地区候補詳細

事務局案	仮 No	地区名	都道府県 市区町村	PR ポイント	推薦者
○	30-1	ウトロ地区	北海道 斜里町	日本を代表する観光地で多くの外国人観光客もいる地域で、津波から住民、観光客を安全に避難させるモデルになる	鍵屋委員
○	30-3	岩原及び沼田地区	神奈川県 南足柄市	広域防災力強化をベースにした地区防災力強化のための取組み	樋口委員
○	30-4	土肥地区	静岡県 伊豆市	3月に津波災害特別警戒区域(海のまち・安全創出エリア)を指定、地域防災先行型の津波防災地域づくりの新しいモデル、全国が注目、今年度から地区防災計画策定のフェーズ	加藤委員
○	30-5	文里地区	和歌山県 田辺市	大槌町安渡地区(被災地)との相互交流を通じて、本地区の避難リスクを共有し、住民や学校などの参加拡大を図り、リアリティの高い避難訓練、身の丈に合った地区防災計画の策定を目指す	吉川委員
○	30-6	宇品西地区	広島県 広島市	(確認中)	阪本委員
○	30-7	中島地区	愛媛県 松山市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎化・高齢化のまちの存続 ・ 美しい海と山の島 ・ 世代みんなで防災訓練 ・ 観光の事業も盛ん 	磯打委員
	30-8	三津浜地区	愛媛県 松山市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な団体が連携・協力 ・ 民生と協力 ・ 子規や漱石も愛したまち ・ 過去の災害を伝承する石碑 	磯打委員

イベントホストとして支援予定

○	30-2	川崎区 扇町	神奈川県 川崎市	新エネルギーを活用している事業所と住民が一体となった津波に対する防災対策の検討	今村委員 川崎市
---	------	-----------	-------------	---	-------------

地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-1

【推薦者】 鍵屋

【地区名】 斜里町 ウトロ地区 (市町村名からご記入ください)

【PRポイント】※日本国内の他地域に広めるため(普及・啓発の観点から)、本地区を推薦するセールスポイントを簡潔にお書きください。

日本を代表する観光地で多くの外国人観光客もいる地域で、津波から住民、観光客を安全に避難させるモデルになる。

【地区候補の概要】

自然特性 (自由記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・海と山が近接し、平野部が狭い。 ・斜里町の中心街から40キロ離れていて、道路が1本なので、孤立しそう。 ・斜里町からの災害時の支援は期待できないので、自分たちでやらなければならないと考えてきた。
社会特性 (自由記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は住民登録で1100人程度、登録外の人も200~300人くらいいそう。 ・世界自然遺産の入り口で観光客は多い。観光客も1000人~2000人以上宿泊している。
災害特性 (自由記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・津波で市街地がほぼ浸水する。今回の被害想定の見直しでさらに高台避難の必要性が高まった。 ・急斜面で高齢者が多いので、車避難しかないが山へ行く道路が3本で必ず渋滞しそう。 ・地震発生後は、山の方からくる道路は通行止めにして、下から2車線にして渋滞を緩和したいと考えてきたが、町はずっと検討中というだけ。 ・北見工大では、流氷津波災害のシミュレーションを作成している。
地区の範囲 (○を記入)	マンション内/町内/町内連合/学校区/他町との連合/その他(ウトロ地区)
協議主体 (○を記入)	町内会・自治会/自主防災組織/まちづくり等の協議会/防災等の協議会/連携()/その他(地区内の関係者)
地区防災計画 の取組現況 (上は自由記入、下は☑を記入)	<p>知床グランドホテルの桑島会長はウトロの発展のために、様々な地域活動をしかけてきたキーパーソンで、非常に温かな方でした。斜里町とも、うまくやっているようです。</p> <p>今回の、津波被害想定の変更を機に防災をしっかりと進めたいと考えておられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている <input type="checkbox"/> 災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している <input type="checkbox"/> 地区防災計画策定に向けたワークショップを実施している <input type="checkbox"/> 地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済(地区防災計画以外) <input type="checkbox"/> 地区防災計画(素案)を策定済 <input checked="" type="checkbox"/> その他(北海道開発局、北見工業大学が防災イベントを予定)

地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-2

【推薦者】 今村文彦・川崎市

【地区名】 川崎市川崎区扇町 (市町村名からご記入ください)

【PRポイント】 ※日本国内の他地域に広めるため（普及・啓発の観点から）、本地区を推薦するセールスポイントを簡潔にお書きください。

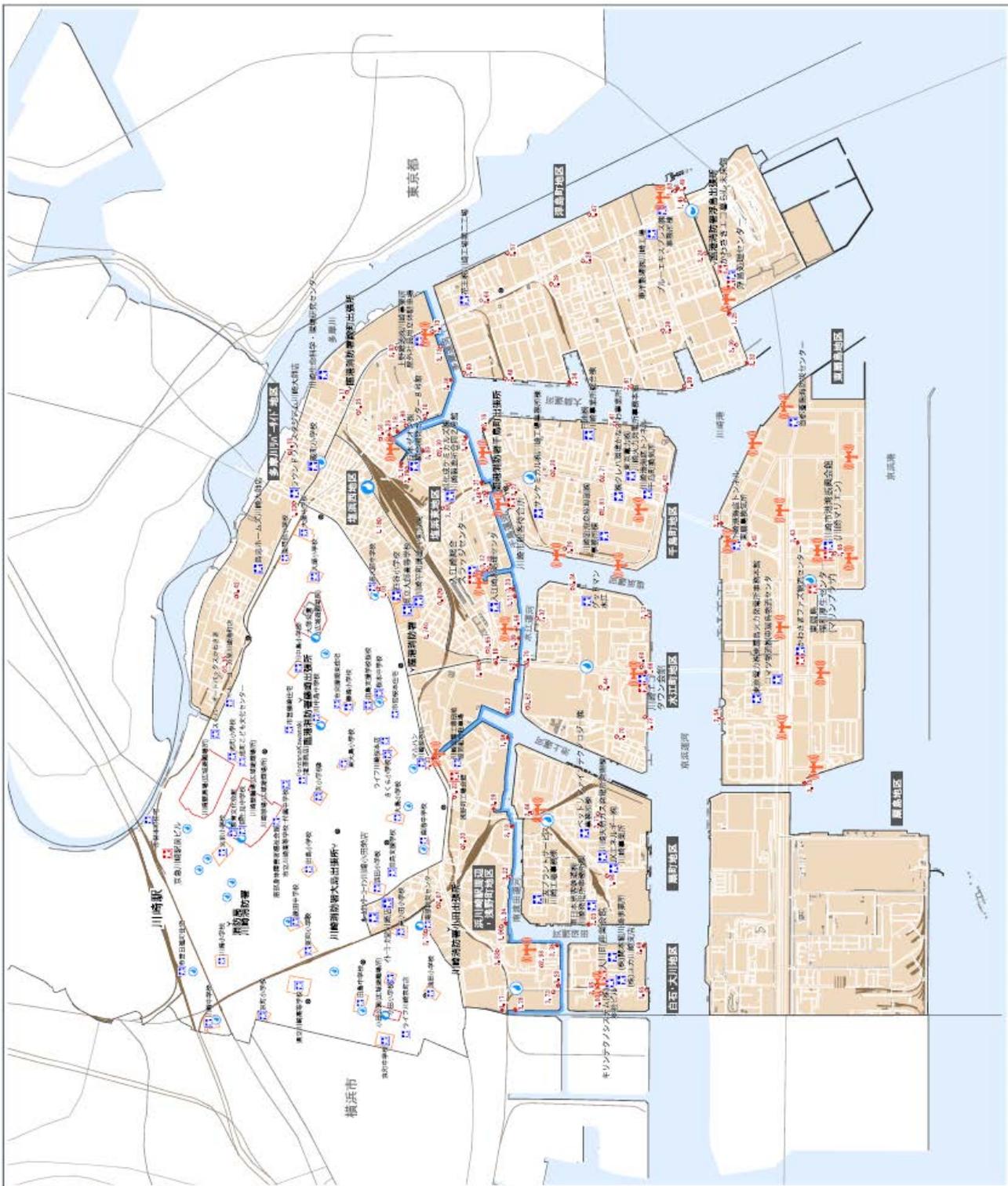
新エネルギーを活用している事業所と住民が一体となった津波に対する防災対策の検討

【地区候補の概要】

自然特性 (自由記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の南東部に位置し、東京湾に面している。 ・明治末から昭和初めに、川崎臨海部は、工場建設のため、埋め立てが行われたが、扇町は、東京湾埋立株式会社により昭和初期に完成、四方を運河に囲まれている。 ・面積は182ha、標高は約2mであり、対岸とは橋梁にて接続している。
社会特性 (自由記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯数46、人口61、従業員3,504、島全体が工業専用地域 ・三井埠頭を皮切りに、多数の企業が進出した工業港湾として、京浜工業地帯の中核を形成した地域である。現在、昭和電工をはじめとして、物流施設や発電所等が立地する工業地帯であるが、鶴見線の沿線には住宅も見られる。 ・近年は、天然ガス・バイオマス・水素等の新エネルギーの導入が進んでいる。 ・対岸と接続している扇橋が使用不可となった場合は船舶により避難する。 ・船舶による避難が困難な場合、島内のより安全な施設への屋内退避を検討する。
災害特性 (自由記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・堤外地であり、現在、川崎市が想定している最大津波が襲来した際は島の大部分が浸水し、浸水深は最大2～3mである。 ・特定事業所が立地しており、危険物の漏洩による火災、有毒ガス拡散、タンク火災、爆発等の発生可能性がある。 ・以前、昭和電工川崎事業所では爆発事故が発生
地区の範囲 (○を記入)	マンション内／町内／町内連合／学区／他町との連合／ その他（島全体）
協議主体 (○を記入)	町内会・自治会／自主防災組織／まちづくり等の協議会／ 防災等の協議会 ／連携（ ）／その他（ ）
地区防災計画の取組現況 (上は自由記入、下は☑を記入) (これまでの取組内容など)	<p>立地事業所では大手企業を中心にBCPを作成するとともに、事業所が連携し、扇町地区防災協議会を組織し、石油コンビナート関連の災害が発生した際の対応を検討している。また、町内会では事業所と連携した訓練の実施や情報伝達体制の整備を進めている。しかし、島全体として、津波の浸水を想定した計画や訓練が不十分であることから、住民と複数の事業所が連携した津波に対する防災対策の検討を進め、全国に立地する沿岸部の工業地帯の参考事例となるべく取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている <input checked="" type="checkbox"/> 災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している <input type="checkbox"/> 地区防災計画策定に向けたワークショップを実施している <input type="checkbox"/> 地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済（地区防災計画以外） <input type="checkbox"/> 地区防災計画（素案）を策定済 <input type="checkbox"/> その他（ ）

川崎臨海部 避難施設 MAP

2017.3現在



- 広域避難場所
 - 避難所
 - 海岸保全施設（防波堤）
 - 津波避難施設
 - 帰宅困難者用一時滞在施設
 - 給水拠点（貯水槽・貯水管）
 - 給水拠点
 - ⚡ 防災行政無線
 - ⊗ 警察署・派出所
 - ⌘ 消防署・出張所
- 川崎市水準点と
東京湾平均海面からの標高(m)
○ 6.00 (a) 水準基標(標石)
● 6.00 (b) 水準点(紙)



地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-3

【推薦者】 樋口邦史

【地区名】 南足柄市岩原及び沼田地区 (市町村名からご記入ください)

【PRポイント】 ※日本国内の他地域に広めるため(普及・啓発の観点から)、本地区を推薦するセールスポイントを簡潔にお書きください。

広域防災力強化をベースにした地区防災力強化のための取組み

【地区候補の概要】

<p>自然特性 (自由記入)</p>	<p>【神奈川県西地域】; 小田原市・真鶴町に津波が3分で到達。真鶴で16・5m、小田原でも11・9mとこれまでの予測よりも速く、大きな津波が押し寄せる可能性がある。小田原市の津波における後方支援として隣接する南足柄市等が重要な位置付けと考えられている。</p> <p>【候補地区; 南足柄市 岩原、沼田地区】; 箱根山の外輪山の北東側にあり、酒匂川の支流のひとつ狩川を中心に市街地が広がっている。北部は丹沢山地がそびえ、相模湾のある南から温暖な海風が吹き込むため、年間を通して温暖な地域である。北は山北町、東は開成町、南は小田原市と箱根町、西は静岡県と接している ※南足柄市人口; 42,656人</p>
<p>社会特性 (自由記入)</p>	<p>【候補地区; 南足柄市 岩原、沼田地区】 人口 南足柄市岩原地区: 総数 4,018人 男性 1903人 女性 2,115人 南足柄市沼田地区: 総数 1,942人 男性 941人 女性 1,001人</p> <p>特徴 岩原・沼田地区は、伊豆箱根鉄道大雄山線(小田原-大雄山)の沿線にあり住宅街である。小田原市に隣接している事もあり生活圏は小田原に依存していると思われる。</p> <p>【広域防災における地域防災力強化の重要性】; 大規模な自然災害が発生した際には、地域特性に応じた「広域」での防災計画が必要となる。神奈川県西地区は小田原市や真鶴町などに津波被害が生じた場合、後方支援及び広域防災の拠点として、被災地と支援地域や組織をつなぐ役目が不可とされている。このような、社会的なニーズに基づき、広域防災計画に則った主体的な「地域防災力強化」が南足柄市では検討され、一般社団法人南足柄みらい創りカレッジを中心に、市境に当たる岩原、沼田地域(地区)の防災力強化のための施策として「防災アカデミー」が計画されている。</p>
<p>災害特性 (自由記入)</p>	<p>【候補地区; 南足柄市 岩原、沼田地区】 南足柄市岩原・沼田地区にて過去に津波の被害はない。</p> <p>【南足柄市歴史的な背景】; 江戸時代(1703年)に発生した元禄地震と「神縄・国府津-松田断層帯」との連動地震。M8・5規模で、小田原で6・3m、真鶴で8・6mの津波が引き起こされたと想定される。また、宝永年間の富士山麓噴火においては、土石流の被害によって、旧足柄上郡岩原、沼田地区を中心に、南足柄市及び開成町等に甚大な被害をもたらした。</p>
<p>地区の範囲 (○を記入)</p>	<p>マンション内/町内/町内連合/学校区/他町との連合/その他 ()</p>

<p>協議主体 (○を記入)</p>	<p>町内会・自治会／自主防災組織／まちづくり等の協議会／防災等の協議会／連携 ()／その他()</p>
<p>地区防災計画 の取組現況 (上は自由記 入、下は☑を記 入)</p>	<p>【候補地区；南足柄市 岩原、沼田地区】 自治会で防災訓練を行っているが自治会に加入されていない世帯が訓練に参加していない現状である。自治会でも意識を高めてもらうためにはどうしたら良いか検討中。又、自主防災組織を再見直しが必要感じている。</p> <p>【南足柄市全体の取り組み】；</p> <p>○広報誌による啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災特集を毎年6月（出水期）に掲載。 ・市総合防災訓練等に関する特集を年8月に掲載。 <p>○毎月第1日曜日を「地域防災の日」と定め、防災行政無線で自助、共助を呼びかけている。</p> <p>○「市民防災の集い」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年1月「防災とボランティア週間」に合わせて、防災講演会等を実施。 <p>○「防災出前講座」の開催</p> <p>○南足柄みらい創りカレッジにおいて、広域防災力及び地域防災力強化のプログラムが開催されることとなっている</p> <p>【南足柄みらい創りカレッジと候補地区；南足柄市 岩原、沼田地区での活動】；(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている <input checked="" type="checkbox"/> 災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している <input checked="" type="checkbox"/> 地区防災計画策定に向けたワークショップを実施予定 <input type="checkbox"/> 地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済（地区防災計画以外） <input type="checkbox"/> 地区防災計画（素案）を策定済 <input type="checkbox"/> その他()

地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-4

【推薦者】 加藤孝明

【地区名】 伊豆市土肥地区 (市町村名からご記入ください)

【PRポイント】 ※日本国内の他地域に広めるため(普及・啓発の観点から)、本地区を推薦するセールスポイントを簡潔にお書きください。

3月に津波災害特別警戒区域(海のまち・安全創出エリア)を指定、地域防災先行型の津波防災地域づくりの新しいモデル。全国が注目。今年度から地区防災計画策定のフェーズ。

【地区候補の概要】

自然特性 (自由記入)	旧土肥町。駿河湾に□した□部に位置し、□肥温泉、□肥海 □浴場、□肥□□、ギネスブック認定世界□の花時計のある松原公園など、□然環境や観光資源に恵まれた地域。また、平成30年度には伊□縦貫□動□道が(仮称)天城湯ヶ島インターチェンジまで延伸予定であり、国道136号の下船原や土肥峠におけるバイパス整備により、□肥地区の観光地へのアクセス向上や災害に強い道路ネットワークの構築が期待される。
社会特性 (自由記入)	1,669世帯。明治、大正、昭和にかけて、人口が徐々に増加し、1950年(昭和25年)頃にピークを迎え、減少に転じています。現在の人口は既に1878年(明治21年)頃と同規模となっています。今後はさらに少子高齢化が急激に加速し、□□の減少が進□。地域のくらしや観光業をはじめとする産業を維持しながらも、災害リスクからの安全・安心を確保していくことが重要。 平成24年2月1日現在、土肥地域の事業所は、観光地であるため宿泊業、飲食サービス業が77件(27.6%)と最も多く、次いで卸売業・小売業69件(24.7%)。従業者も同様に宿泊業、飲食サービス業が631人(42.5%)と最も多く、次いで卸売業、小売業300人(20.2%)となっています。
災害特性 (自由記入)	L1: 4分7m, L2: 6分10m。狭隘道路、老朽建物多数。空家も多い。土砂災害警戒区域もあり。
地区の範囲 (○を記入)	○その他(土肥地区)…。対象は土肥地区全体。計画策定は
協議主体 (○を記入)	○町内会・自治会／自主防災組織／まちづくり等の協議会／防災等の協議会／連携()／○その他(旅館組合・観光協会)
地区防災計画の取組現況 (上は自由記入、下は□を記入)	津波防災地域づくり推進計画を策定済み(第二版)。2018年3月津波災害特別警戒区域を全国初指定。各区(町会)、中学校、旅館組合などの地域組織が「がんばる地域宣言」を検討、採択。それに引き続いて地区防災計画の策定をすすめることが記載。レジリエンスアワード2017グランプリ受賞。地域は盛り上がっている、支援するチャンス。 <ul style="list-style-type: none"> ■防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている ■災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している ■地区防災計画策定に向けたワークショップを実施している □地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済(地区防災計画以外) □地区防災計画(素案)を策定済 ■その他(「がんばる地域宣言」を採択済み())

地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-5

【推薦者】 吉川忠寛

【地区名】 田辺市文里地区（文里自主防災会）

【PRポイント】 本地区は、1946年の昭和南海地震で津波による甚大な被害を被り、また、南海トラフ巨大地震による津波避難困難地域にも指定されている。しかし、「津波の危険度が高いのに住民の参加意識は低い」といわれる。そこで、大槌町安渡地区（被災地）との相互交流を通じて、本地区の避難リスクを共有し、住民や学校などの参加拡大を図り、リアリティの高い避難訓練、身の丈に合った地区防災計画の策定を目指す。文里自主防災会の現会長は、「新庄地震学」（防災教育）を推進し、「ぼうさい甲子園」でグランプリに輝いた新庄中学校の元校長先生

【地区候補の概要】

自然特性 (自由記入)	文里地区は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置する田辺市の沿岸部にあり、紀伊水道に向かって南西に開く文里港の西岸に位置している。地区の大部分が平地であり、そのほとんどが津波浸水想定区域である。 沿岸部に近い小さな山などが一時避難場所に指定されている。
社会特性 (自由記入)	文里地区の人口は1,678人で847世帯を有し(2018年4月30日現在)、高齢化率は約30%(2018年3月31日現在)となっている。沿岸部には事業所、宿泊施設、学校等が存在し、内陸に向かって住宅地となっている。
災害特性 (自由記入)	1946年12月21日に発生した昭和南海地震では、地震発生後、数分後には第一波が襲来し、その後、大津波は少なくとも3回以上あり、波高は2m～5mであった。田辺市での被害は、死者69人、家屋流出145戸、家屋全半壊502戸、床上浸水は731戸であり、とくに文里地区の犠牲者は37人に上った。 また、沿岸部の一部は、南海トラフ巨大地震の津波浸水想定による「津波避難困難地域」になっており、文里地区では、第一波到達時間17-21分、想定最大浸水深9mと想定されている。
地区の範囲 (○を記入)	マンション内／○町内／町内連合／学区／他町との連合／その他
協議主体 (○を記入)	町内会・自治会／○自主防災組織(文里自主防災会)／まちづくり等の協議会／防災等の協議会／連携()／その他()
地区防災計画 の取組現況 (上は自由記入、下は☑を記入)	2002年の自主防災会結成以来、避難階段の自主整備、防災訓練の定期開催、啓発講座、ワークショップ(DIG, HUG)、他地区の視察、防災マップ・防災ニュースの発行などを実施してきた。近年の防災訓練では、地区内の県立高校との連携を始めた。 <input checked="" type="checkbox"/> 防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている <input checked="" type="checkbox"/> 災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している <input type="checkbox"/> 地区防災計画策定に向けたワークショップを実施予定 <input type="checkbox"/> 地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済(地区防災計画以外) <input type="checkbox"/> 地区防災計画(素案)を策定済 その他()

地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-6

【推薦者】 阪本真由美

【地区名】 広島市南区宇品西 (市町村名からご記入ください)

【PRポイント】※日本国内の他地域に広めるため(普及・啓発の観点から)、本地区を推薦するセールスポイントを簡潔にお書きください。

【地区候補の概要】

自然特性 (自由記入)	宇品地区は東部の工業地区～マツダ宇品工場～(宇品東)南部の港湾地区(宇品海岸)西部の商業、住宅地区宇品地区は、南に広島湾(広島港)西に大田川水系の元安川と京橋川の合流点となっている、宇品西地区は海拔2.3m、その他の地区は海拔-0.3m～0.1m位である、地区の南端を通過する、広島高速3号線の開通に伴い南部を中心に町並みが大きく変わってきた。
社会特性 (自由記入)	世帯数 約9,900世帯 人口 約21,500人 近年の宇品西地区は、再開発の目玉として高層建築のマンションや商業施設が建設され出店している、(宇品神田、宇品御幸、宇品西)出島地区(工業団地)大きく4つに大別される。
災害特性 (自由記入)	今後、宇品西地区に予想される災害は、高潮による浸水、大雨などによる浸水(内水)氾濫が予想されている。
地区の範囲 (○を記入)	マンション内/町内/町内連合/ <u> </u> 学区/他町との連合/その他()
協議主体 (○を記入)	<u> </u> 町内会/自治会/ <u> </u> 自主防災組織/まちづくり等の協議会/防災等の協議会/連携()/その他()
地区防災計画の取組現況 (上は自由記入、下は☑を記入)	宇品西地区には、宇品西地区自主防災連合会が組織されており、各町内会にはそれぞれ自主防災会が結成されています、避難の状態になった場合の避難所運営マニュアル役員等のメンバーも決定している、組織的には出来ているが、災害発生時に組織の運用がスムーズに出来るか、これが我が地区の問題点だと思います。 当地域には、2名の防災士が所属している。 <input type="checkbox"/> 防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている <input type="checkbox"/> 災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している <input type="checkbox"/> 地区防災計画策定に向けたワークショップを実施している <input type="checkbox"/> 地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済(地区防災計画以外) <input type="checkbox"/> 地区防災計画(素案)を策定済 <input type="checkbox"/> その他()

地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-7

【推薦者】 磯打千雅子（香川大学）

【地区名】 松山市 中島地区 （市町村名からご記入ください）

【PRポイント】※日本国内の他地域に広めるため（普及・啓発の観点から）、本地区を推薦するセールスポイントを簡潔にお書きください。

・過疎化・高齢化のまちの存続 ・美しい海と山の島 ・世代みんなで防災訓練 ・観光の事業も盛ん 等

【地区候補の概要】

自然特性 (自由記入)	松山市西部に位置する瀬戸内海の島嶼部6島からなる。周囲は海に囲まれ、海岸から山間部までの距離が近く、居住区域は主に沿岸部のわずかな平野となっている。6島間は船での移動のみ可能である。
社会特性 (自由記入)	中島地区の人口は約3,500人で、高齢者比率が60%以上と非常に高くなっている。島内は循環する県道を除けば狭隘な生活道路がほとんどで、建物は古い木造住宅が多くを占める。 柑橘類の栽培を中心とした農業や漁業などの一次産業が主であるとともに、島外で仕事に従事する住民も多く、平日昼間人口は女性や高齢者の割合が非常に高くなっている。 毎年開催する中島トライアスロンや交流事業など、観光面等の誘客事業も盛んで、時期によっては不特定多数の来訪者の対応も考慮する必要がある。
災害特性 (自由記入)	四方を海に囲まれているため、地震や台風時には津波、高潮による浸水被害が想定されており、過去にも高潮等の被害が数多く発生している。島内は概ね山間部のため土砂災害の発生が懸念されるとともに、古い木造住宅密集地では火災の延焼が懸念される。また、高齢化率が高く災害時の活動体制及び支援体制が懸念される。
地区の範囲 (○を記入)	マンション内／町内／町内連合／ <input checked="" type="checkbox"/> 学校区／他町との連合／その他（ ）
協議主体 (○を記入)	町内会・自治会／ <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織／まちづくり等の協議会／防災等の協議会／連携（ ）／その他（ ）
地区防災計画 の取組現況 (上は自由記入、下は☑を記入)	地区防災計画の平常時の備えや基本的な対応方針など概要の作成は済んでいるが、津波、高潮など想定される災害への対応について個別詳細には検討されておらず、今後の課題となっている。 <input type="checkbox"/> 防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている <input checked="" type="checkbox"/> 災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している <input type="checkbox"/> 地区防災計画策定に向けたワークショップを実施している <input type="checkbox"/> 地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済（地区防災計画以外） <input checked="" type="checkbox"/> 地区防災計画（素案）を策定済 <input checked="" type="checkbox"/> その他（計画骨子はできているものの実行性向上に向けた具体化が今後の課題）

地域で津波等に備える地区防災計画策定の支援を行う地区候補

【No.】 30-8

【推薦者】 磯打千雅子（香川大学）

【地区名】 松山市 三津浜地区 （市町村名からご記入ください）

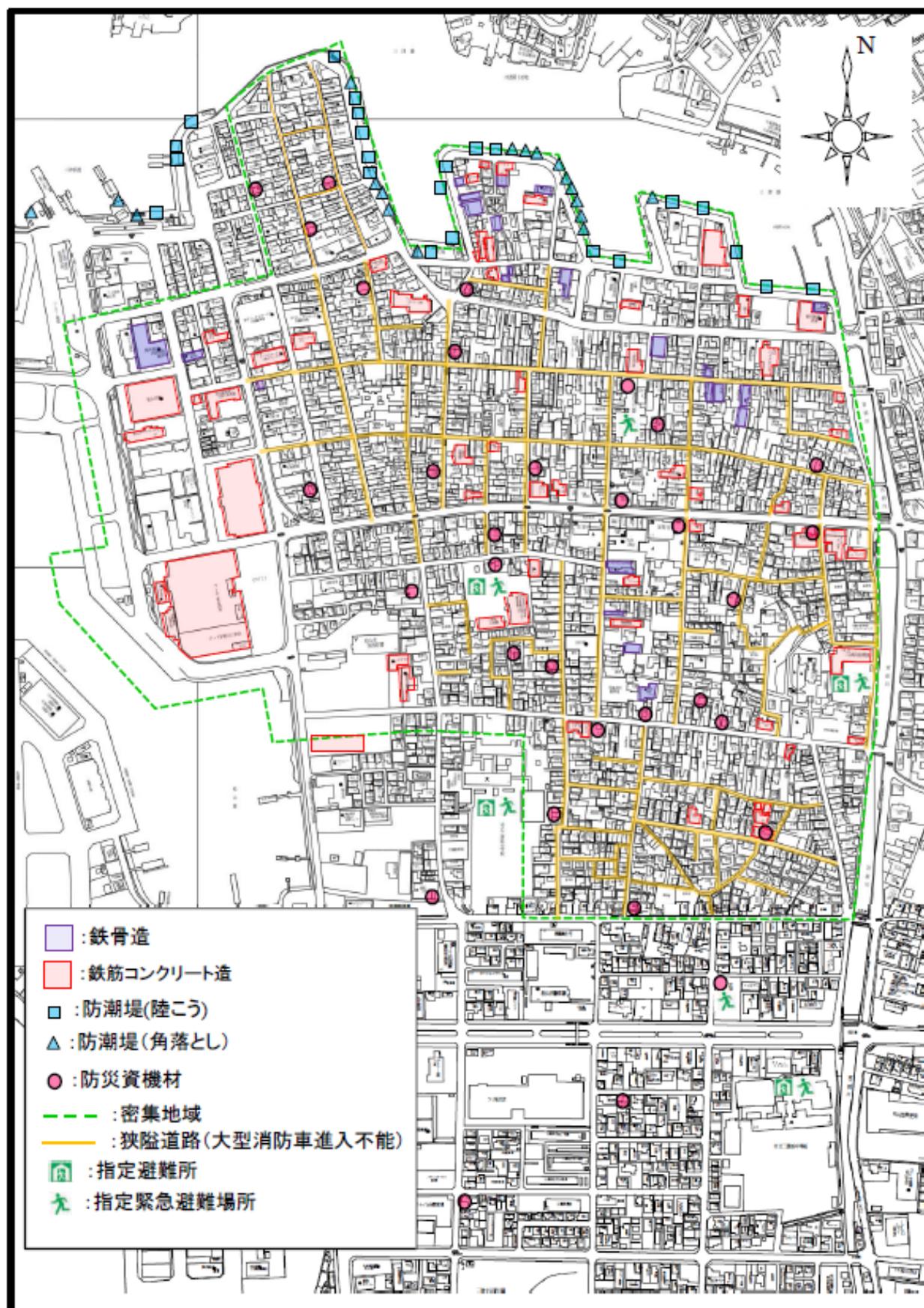
【PRポイント】※日本国内の他地域に広めるため（普及・啓発の観点から）、本地区を推薦するセールスポイントを簡潔にお書きください。

・様々な団体が連携・協力 ・民生と協力 ・子規や漱石も愛したまち ・過去の災害を伝承する石碑 等

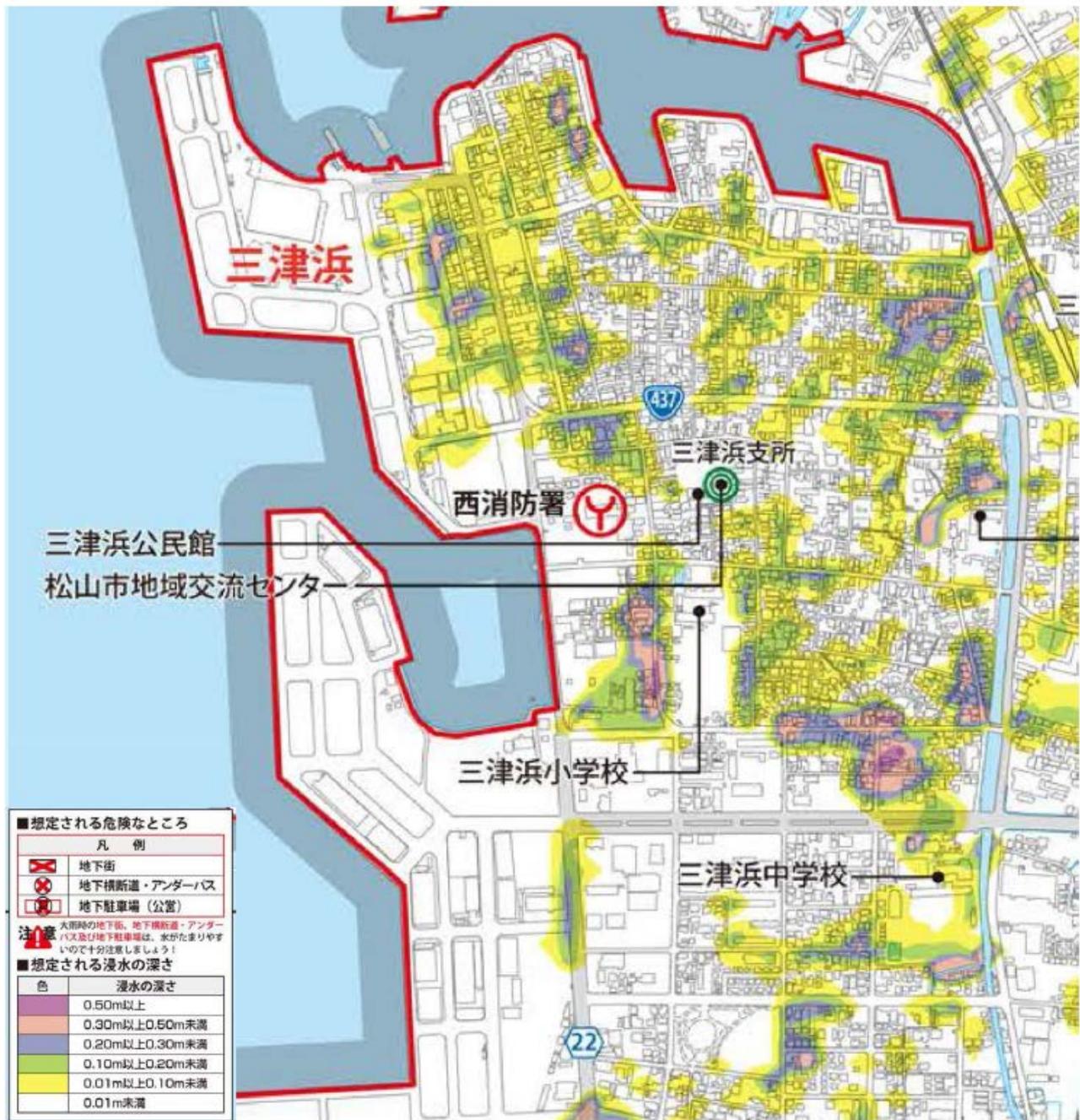
【地区候補の概要】

自然特性 (自由記入)	松山市西部に位置し瀬戸内海に面する。伊予灘と丘陵地に囲まれ、地区の中心には住宅地があり、港湾、漁業地区と船舶関係事業所等の地区がその外側を取り囲んでいる。東側には南北に宮前川が流れている。
社会特性 (自由記入)	江戸時代には松山藩の御船手組（船奉行所）が置かれた港町で、漁業や商業で繁栄していた。明治期には正岡子規や夏目漱石、秋山兄弟も三津浜港から出航して上京するなど、明治から昭和の中頃まで、松山と本州や離島を結ぶ海の玄関として要衝となっていた。しかし、現在は事業所数や人口及び世帯数が減少傾向にあり、人口は6千人を下回り、高齢化率は増加傾向にある。三津浜地区は、戦災を免れた魅力的な古い町並みが特徴の一つであり、道路が狭隘で住宅密集地域が多くを占めている。夏には「まつやま港まつり」が開催され多くの人が集まる。
災害特性 (自由記入)	海に面しているため津波や高潮の浸水被害が想定される。明治17年8月25日には、台風による高潮のために150名以上の人命や多数の住家が水に吞まれた。そのときの慰霊のための「豫洲溺死者招魂碑」が元町の地藏堂裏にある。また、平成3年9月27日には、台風第19号により、既往最高潮位標高2.75mを記録し、旧松山市内において負傷者11名、全壊10棟、半壊50棟、一部破損415棟、床上浸水373棟、床下浸水1,711棟等の大きな被害が出た。古い木造住宅が密集し、地震火災等の危険性も高い。
地区の範囲 (○を記入)	マンション内／町内／町内連合／ <input checked="" type="checkbox"/> 学区／他町との連合／その他（ ）
協議主体 (○を記入)	町内会・自治会／ <input checked="" type="checkbox"/> 自主防災組織／まちづくり等の協議会／防災等の協議会／連携（ ）／その他（ ）
地区防災計画の取組現況 (上は自由記入、下は☑を記入)	<p>(これまでの取組内容など)</p> <p>地区防災計画の平常時の備えや基本的な対応方針など概要の作成は済んでいるが、津波、高潮など想定される災害への対応について個別詳細には検討されておらず、今後の課題となっている。また、自主防災組織のほかに、民生児童委員や学校関係者など地域ぐるみで地区防災計画の作成を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 防災意識向上のための啓発講座やイベント等が開催されている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 災害発生時の対応を確認するための避難訓練等を実施している</p> <p><input type="checkbox"/> 地区防災計画策定に向けたワークショップを実施している</p> <p><input type="checkbox"/> 地区の課題に対応した計画やマニュアルを策定済（地区防災計画以外）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 地区防災計画（素案）を策定済</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他（計画骨子はできているものの実行性向上に向けた具体化が今後の課題）</p>

三津浜地区防災マップ



まつやま内水ハザードマップ（三津浜地区）



※「内水氾濫」とは、下水道などの処理能力を超える大雨が降ったときに、雨水を河川などに排水できなくなることによって起こる住宅、道路などへの浸水のことです。

